

研究成果を発表!

平成17年度東海北陸地区看護研究学会

銀賞を受賞!

平成17年10月13・14日、「平成17年度東海北陸地区看護研究学会」が、「人々のくらしと共にある看護の役割」をテーマに静岡市駿河区のグランシップにて開催されました。当院からも看護師が参加し、日頃の研究成果について演題発表を行いました。

今回の学会発表において、当院から発表を行った、3階西病棟の看護師、小島清美さんの発表

が、参加者投票により、なんと「銀賞」を受賞致しました。その研究発表の内容をお知らせします。会場では、各病院から注目を集め、活発な質疑応答が交わられました。今回の学会での発表以外にも当院では、医師、看護師、技師などそれぞれが様々なテーマで研究を行い発表をしています。今後よりよい病院を目指して、研鑽してきます。



新人看護師の気持ちの検証POMSを活用して

掛川市立総合病院
小島清美、服部幸子、杉山久美子

1 研究目的

新人看護師は、就職して毎日緊張状態で、失敗を繰り返す、些細なことでも泣いてしまいが、2年目になると何時しか表情も明るく、患者との関わりも笑顔で出来るようになる。当院新人看護師の1年間の気持ちの変化を知り、その時期にあった関わり方を考える基礎とする。

2 研究方法

- ① 研究デザイン：調査研究 (POMSの気分尺度活用)
- ② 研究対象：研究に同意を得た看護職未経験の看護師
- ③ 研究期間：平成16年1月～

平成17年3月

4 研究場所：K病院

5 調査方法

- (1) 期間：平成16年4月～平成17年3月
- (2) 方法：(a)調査用紙配布・回収 職場に配属前の集中オリエンテーション時・毎月第1月曜日 (b)1回目調査時番号札を配布、POMS用紙に毎回番号を記入し個人経過を把握、個人を特定しない。

6 データの分析方法

- (1) 緊張・不安、抑うつ・落ち込み、怒り・敵意、活気、疲労、混乱の6項目を調査結果を気分プロフィール換算表を基にT得点を算出

3 結果

回収率は95.3%

- (2) 分類 41点以上60点が平均群、61点以上が高い群、40点以下が低い群

① 個人評価で緊張不安、抑うつ・落ち込み、怒り・敵意、活気、疲労、混乱の6つの項目は1年間、同じパターンを示す者はない。

2 項目別比較

- (1) 緊張・不安：高い群では、前半6ヶ月間のうち8月以外は、80～90%を示している。
- (2) 抑うつ・落ち込み：4月は平均群が75%であるが、8月を除く5月から11月までは、高い群が50%以上を占め、中でも6月と9月は81%である。
- (3) 怒り・敵意：4月から1年間を通して平均群が63～88%を占めているが、9月から1月までは高い群が26～38%を示している。
- (4) 活気：平均群は、年間を通して56～93%を占めている。
- (5) 疲労：4月の時点で56%が疲労の高い群を占めている。
- (6) 混乱：4月の時点で44%が高い群を占めている。

4 考察

み19件・怒り・敵意12件・疲労9件・混乱14件あった。

当院の傾向として、緊張不安、疲労は年間を通して継続的に高く、抑うつ・落ち込み、混乱は就職後7ヶ月頃よりやや改善傾向にあり、怒り、敵意は年間を通して比較的安定している。今までに中途退職者が無く経過していたので、このように多くのストレスを抱えているとは予想外の結果であった。1週間の気分尺度を測定するPOMSの特徴から職場環境、救急蘇生法についての研修など様々な要因で変動したと考える。

5 結論

- ① 全ての項目で16人中14人がT得点で75点以上をとっている
- ② 客観的なデータを活用し、各時期で個人的関わりが必要